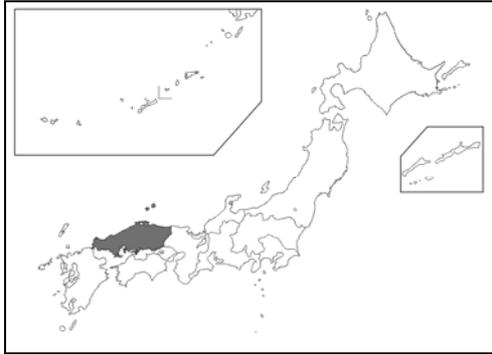


(8) 中国



中国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

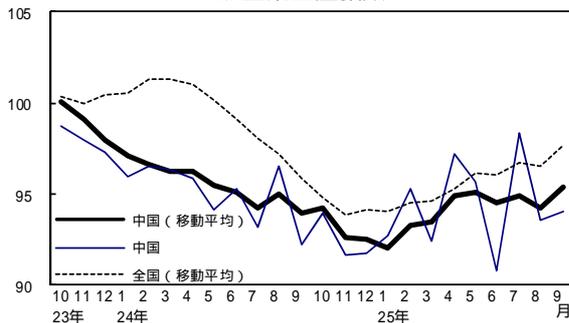
	前回(平成25年8月)	今回(平成25年11月)	
景況判断	緩やかに持ち直し	持ち直し	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	改善の動き	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

7～9月期には、輸送機械は、新型車効果等から増加した。化学は、工場の定期修理があったこと等から減少した。はん用・生産用・業務用機械は、火力発電所向けのボイラ部品・付属品の生産が行われたこと等から増加した。鉄鋼は、操業日数が減少したこと等から減少した。電子部品・デバイス、8月にアクティブ型液晶素子が減少したこと等から減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

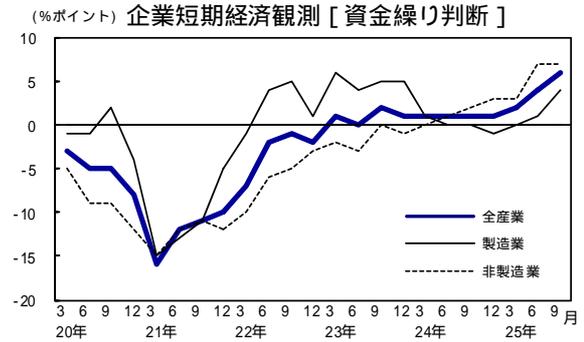
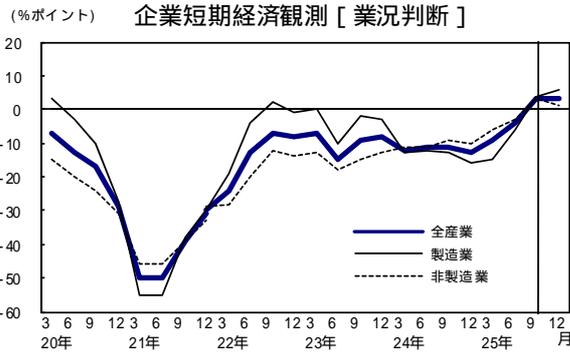
	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	23.5	0.5	0.5	4.3	2.9	4.2
化学	16.4	1.6	6.2	1.2	5.5	4.2
はん用・生産用・業務用機械	11.2	3.4	5.5	33.2	19.7	15.8
鉄鋼	7.7	0.1	2.7	1.1	2.7	4.0
電子部品・デバイス	7.1	3.6	1.3	1.5	10.1	14.7
鉱工業	100.0	1.2	0.8	8.4	4.9	0.5

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の大線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

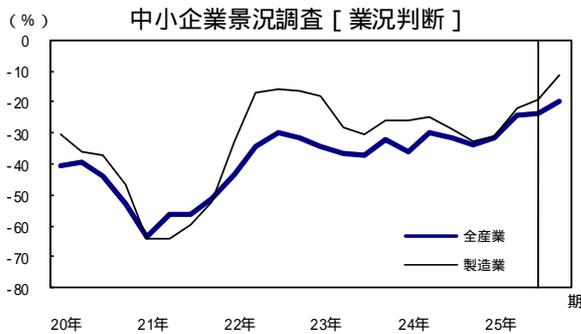
(2) 業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年12月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

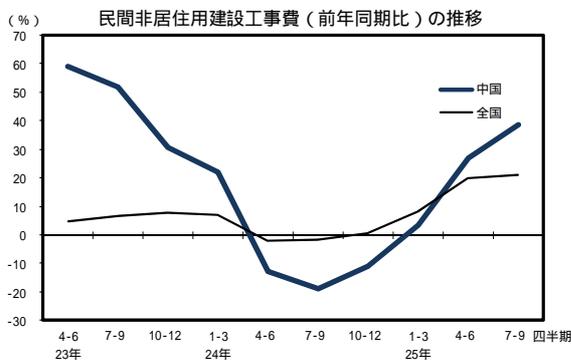


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「自動車向けと建設向けが好調で、各鋼材の需要が増加している(鉄鋼業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度値
全産業	2.0	0.8 (1.4)
製造業	0.6	2.7 (0.7)
非製造業	4.1	6.3 (2.3)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.3%減、8月は同1.2%増、9月は同1.0%減となった。

大型小売店販売額

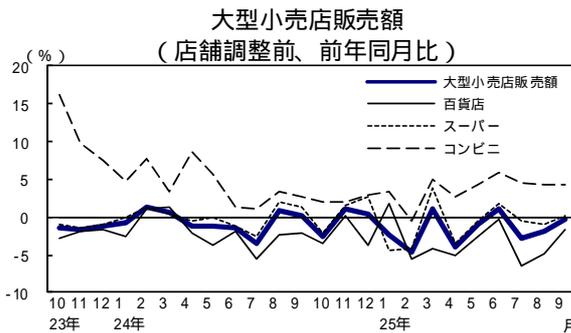
百貨店は、7月はセールが6月に前倒しされた反動等から前年を下回った。8月は後半の天候があまり良くなかったこともあり来客数が鈍ったこと等から前年を下回った。9月は飲食料品が減少したこと等から前年を下回った。

スーパーは、衣料品が低調だった時期があったこと等から、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、50.9となり前月より1.1ポイント上昇した。

「販売量が前年の120%で、月10日残して月間販売目標を達成するほど良い状況である(乗用車販売店)」など、「良くなっている」とする回答が増加した。

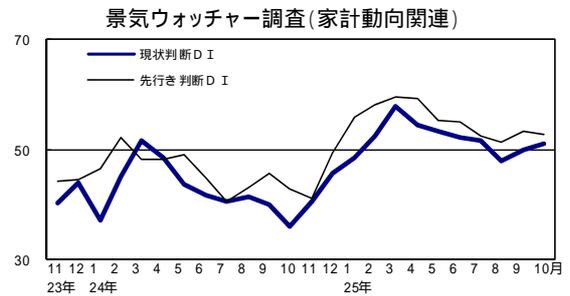
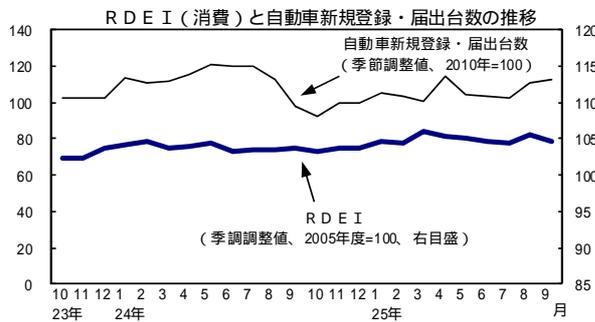


	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.2	0.3	1.2	1.0
大型小売店(*2)	1.6	2.7	1.8	0.2
百貨店(*2)	4.5	6.4	4.9	1.6
スーパー(*2)	0.4	0.5	1.0	0.3
コンビニ(*2)	4.4	4.5	4.3	4.4
乗用車(*3)	1.4	12.9	4.7	15.4
(季節調整値)(*3)	0.8	1.1	8.1	1.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

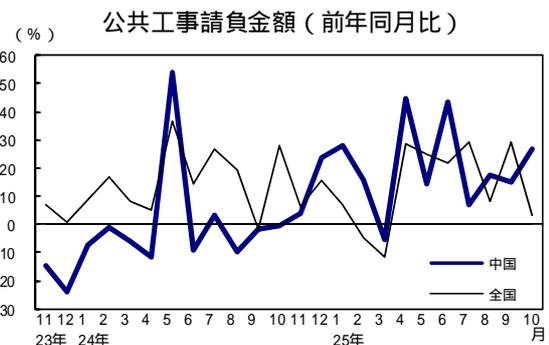
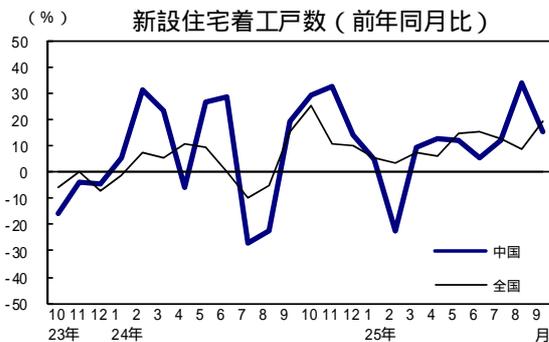
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

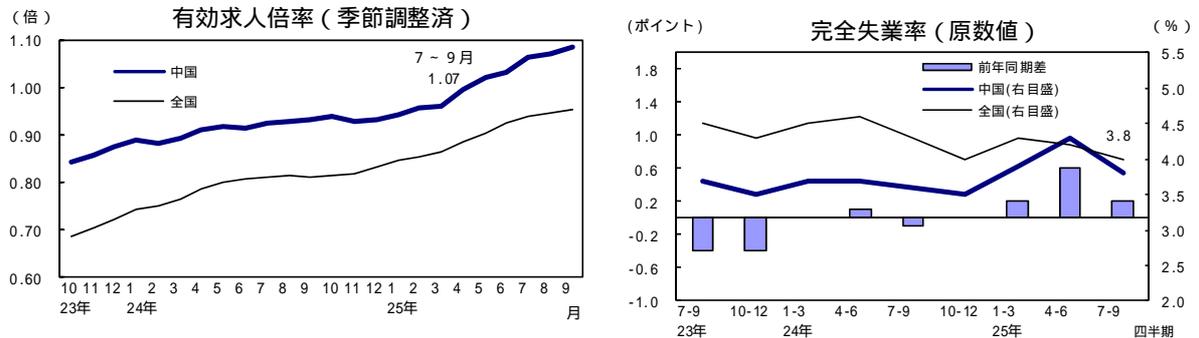


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

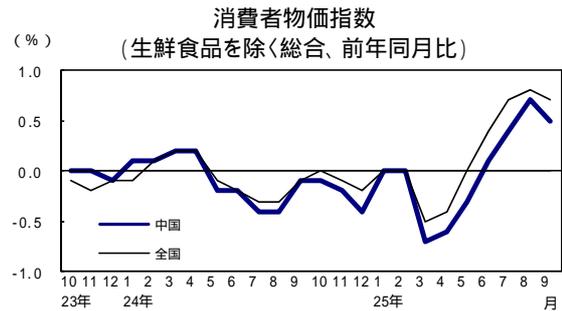
「新規求人数は増加を続け、特に派遣事業者からの求人が前年同月と比較して5割増となるなど、企業活動は活発になってきている(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	132	127	126	121	56
(前年比)	7.7	2.3	7.7	10.4	14.3
負債総額	234	265	719	177	62
(前年比)	48.0	34.7	197.3	9.7	10.4



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・消費増税や住宅関係の税制制度が確定し、増税にはなるが優遇制度による安心感が客にあるように感じる。消費増税の駆け込み需要の反動を懸念していたが、客は活発に動いており、引き続き好況感がある(住宅販売会社)

<先行き>

- ・来春、給料のベースアップなどが実現されれば、景気は良くなる。消費増税前の駆け込み需要もある程度、期待できる。人・物・金が動くようになれば、景気は回復する(金融業)

